

2013年12月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度を見ると、極うずはグリーンランドから北米北岸に位置した。カナダ中部や大西洋東部では明瞭なトラフ、ヨーロッパではリッジとなった。中国東部から本州東海上にかけては東西に広く負偏差、東シベリアからアラスカの南では正偏差となった。亜熱帯ジェット気流は日本付近から太平洋にかけて平年の位置から南偏した。アリューシャン低気圧は南西側で平年より強く、シベリア高気圧は東への張り出しが平年より弱かった。

熱帯の対流活動は、インド洋中・東部からインドネシア周辺で平年より活発、日付変更線付近、オーストラリア北東部では不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬にインド洋、中旬から下旬にはインドネシアから太平洋西部に位置した。対流圏下層の赤道域ではインド洋で西風偏差、太平洋西部では東風偏差が卓越した。対流圏上層ではアラビア半島からフィリピン東海上にかけて高気圧性循環偏差、中国東部から本州東海上にかけては明瞭な低気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.1だった。

世界の天候

2013年12月の世界の月平均気温偏差は+0.16°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、4番目に高い値となった。12月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.71°C/100年（速報値）である。

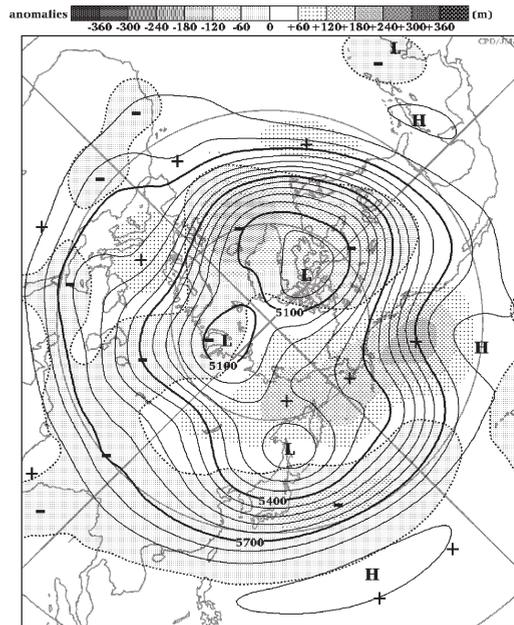
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 中国南部～インドシナ半島では、異常低温・異常多雨となった。
- ヨーロッパ北西部では異常多雨となった。
- カナダ中部・米国西部及びその周辺では異常低温となった。

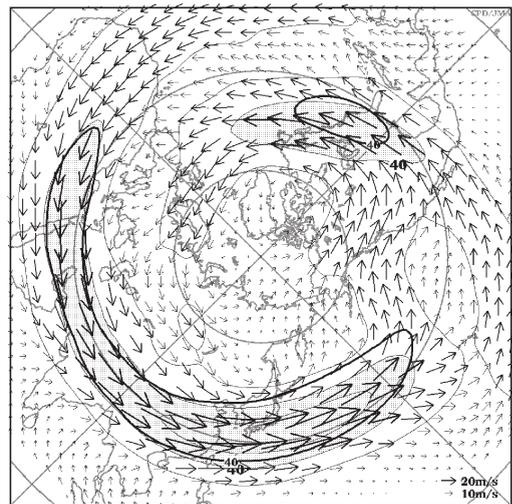
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

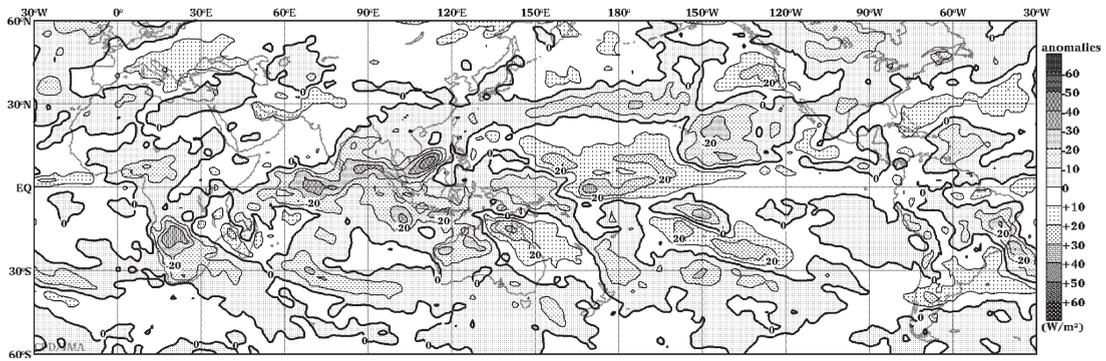
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



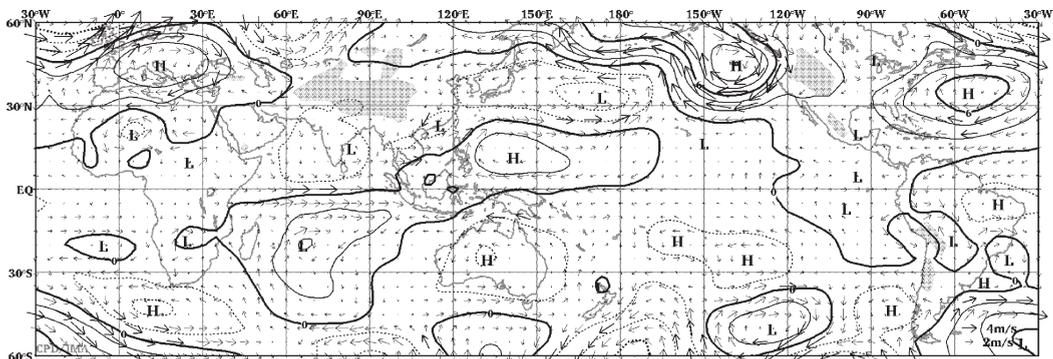
2013年12月の北半球月平均 500 hPa 高度および平年偏差
等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年のデータから作成。



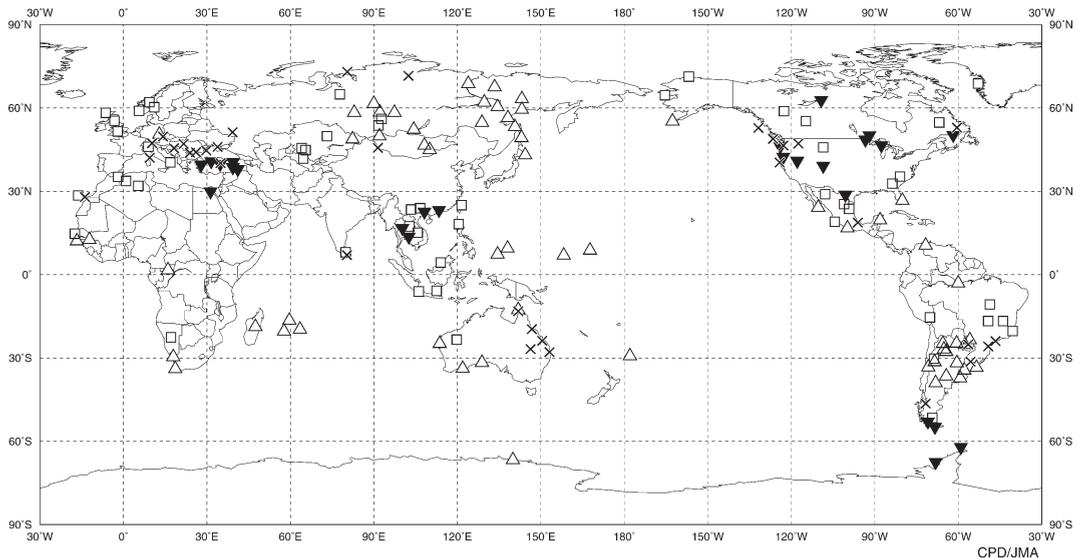
2013年12月の北半球月平均 200 hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は20 m/s。陰影部は40 m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の40 m/s以上の領域を示す。平年値は1981～2010年のデータから作成。



2013年12月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは NOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年12月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2013年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上，異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。